

# American Rock Lyric Landscape



—アメリカン・ロック・リリック・ランドスケープ—

ロックの歌詞から見えてくるアメリカの風景

文=ジョージ・カックル

イラストレーション=花井祐介

第1回

ハイウェイから生まれた、  
アメリカらしいリリック

**Rickie Lee Jones**  
**'The Last Chance Texaco'**

RICKIE LEE JONES



Rickie Lee Jones  
"Rickie Lee Jones"  
Warner Bros. BSK3296 [1979]  
▶ワーナー ©WPCR75433

音楽はアート、周りの文化から生まれてくる。ロックのリリックも然り。曲が書かれたときの環境が反映されている。この連載では、そんなアメリカの風景が歌詞の中から読み取れるような曲の数々を、僕自身の体験と併せて紹介していきたい。第1回はリッキー・リー・ジョーンズの「ザ・ラスト・チャンス・テキサコ」。79年にリリースされたデビュー・アルバムの中の一曲だ。

彼女は日本では実力派の美人シンガーという印象が強いが、一枚目のアルバムの大半の曲は、実はちょっと危ない、LAやハリウッドの町の世界の話だ。日本で言えば、夢を追って渋谷や新宿のような都会に出てきて、格好つけて大人になろうとしている若者たちを描いている。ちょっとビートニクみたいな感じだ。僕はこのアルバムを聴いて、新宿2丁目のロック・バー「開拓地」

生を、車に關係する言葉に譬えながら描いているんだ。

A long stretch of headlights  
Bends into I-9  
Tiploe into truck stops  
And sleepy diesel eyes  
Volcanoes rumble in the taxi  
And glow in the dark  
Camels in the driver's seat  
A slow, easy mark

実際にI-9という高速道路はないが、この最初のヴァースでは、寂しいトラック・ストップがこの歌の舞台であることが僕たちリスナーに示される。「Sleepy Diesel」という言葉から、ここにやって来る人たちはもうすでにクタクタに疲れていることを連想させる。歌詞を日本語で表現する、「ヘッドライトが伸びて、ハイウェイI-9に曲りこんでいく。トラック・ストップに忍び込む、眠たいディーゼルの目。タクシの中では火山がゴロゴロし、暗闇に灯るキャメルの煙草が、ドライバーのシートにだまされやすいんだ」といった感じだ。ち

なみに「Easy Mark」とは、だまされやすい人のことを言う。

But you ran out of gas  
Down the road a piece  
Then the battery went dead  
And now the cable won't reach...

「Ran Out Of Gas」つまりガス欠は、体力を使い果たしたという事。「道路の先ではバッテリーも死んで、気力も何も、もう空っぽだ。ケーブルも届かない」。このトラック・ストップにやって来た人たちは、身も心もボロボロなんだとリッキーは歌う。「Reach」は助けを求めるときによく使われる言葉だ。例えば「Reach Out For Help」と言うように。

It's your last chance  
To check under the hood  
Last chance  
She ain't soundin' too good,  
Your last chance  
To trust the man with the star  
You've found the last chance Texaco

にいた頃のことを思い出した。自分がいた世界のアメリカ版。開拓地は音楽好きの若者が夜な夜な集まってくるコアな世界だったんだ。夢はあるけど、ちょっと切ない。リッキー・リー・ジョーンズのアルバムも、そんな感じだった。ジャジーでポップで、力強い曲が並んでいる。でも今回紹介する「ザ・ラスト」という曲は、このアルバムのなかでは異質な存在で、最初は気にかからなかった。それが車の旅をするようになって、この曲に目がとまるようになったんだ。アメリカのハイウェイを走ると、トラック・ストップの少し手前で、こんな看板を目にすることがある。「Last Chance For Gas For Hundred Miles」。トラック・ストップとは、ガソリンスタンドや修理工場、カフェ、土産物屋やモーター、そして広い駐車場がひとつに集まっている、いわばサーヴィスエリアのようなところだ。そしてハイウェイに「Exit」の看板が出てくると、この先にはもうトラック・ストップはないという知らせで、そこが最後のチャンスというわけだ。

リッキー・リー・ジョーンズは、そんなトラック・ストップに辿り着いた男女の人

Last chance

「ボンネットの下をチェックするのは、最後のチャンス。彼女はあまりいい音をしていなら」。‘Hood’とはボンネットのことだ。その下(のエンジン)をチェックするというのは、頭の中身を調べるという意味だ。次に出てくる‘She’は、車と、このトラック・ストップにやってきた男の彼女のことを表わしていて、あまりいい音をしていないということは、車のエンジンの調子と、彼女の精神状態が良くないことを意味している。

「星を付けている人を信用しろ。あなたは最後のチャンスのテキサコを見つけたんだ」。星を付けている人、というのは本来保安官のことだが、実はテキサコ(ガソリンスタンド)のユニフォームにも星が付いている。ここではガソリンスタンドを保安官に譬えているんだ。アメリカでは保安官はヒーローだからね。

Well, he tried to be Standard  
He tries to be Mobil  
He tried living in a world

And in a shell  
There was this block-busted blonde  
He loved her - free parts and labor  
But she broke down and died  
She threw all the rods he gave her

ここではこのトラック・ストップに次に入ってきた別の男のことを話している。詩のなかにある‘Standard, Mobil, World, Shell’は全部ガソリンスタンドの名前。見事だ！ここから車に関係する言葉がたくさん出てくるようになる。車を指しているのか、その男の‘彼女’のことを指しているのかわからなくなるほどだ。「彼は普通になろうとした。彼は働ける人になろうとした。世界の中で生きていこうと思った。そして貝殻の中で、そこにはブロックを壊すブロックがいた。彼は彼女を愛した。部品と部品を付ける手間賃は無料だけど、彼女は壊れて死んでしまった。彼があげたロッドをすべて投げてしまった」。

‘Block’はエンジン・ブロックのこと、ここからはその男の彼女のことを車に譬えている。イメージ的には巨乳の安っぽい金髪。次に‘Free Parts And Labor’と書か



れているが、本来はFreeでなく、Plusと書かれている。部品とそれを取り付ける手間賃がかかるという意味だ。しかしここでFreeであるのは、彼が彼女を愛しているからいろいろものをあげたり、いろんなことをして大切にしたいということだろう。‘Broke Down’は車が壊れた＝彼女が精神的に参って泣いてしまったことだろう。‘Threw All The Rods’は‘エンジンの部品ピストン・ロッドが、折れたり壊れたりしたということ。つまり、彼女が彼からもらったすべてを捨ててしまったということだ。

But this one ain't fuel-injected  
Her plug's disconnected  
She gets scared and she stalls  
She just needs a man, that's all

ここではラスト・チャンス・テキサコにたどり着いた次に入ってきた別の女の子の話。だが今度来たのはフルインジェクションじゃない。彼女のプラグは外れている。彼女は怖くなってストールしてしまう。彼女は男が欲しいだけだ。この曲を描いた70年代当時に走っていた車はほとんどカビユ

レーターというシステムで、フルインジェクションを使っていたのは新しい車だった。だからきつとこの女性はもう若いんじゃないだろう。

‘Plugs Disconnected’は、あの人はちょっと頭が抜けているんじゃないか、という具合に使う言葉。エンジンの中の部品、スパーク・プラグのワイヤーが外れてミス・ファイヤーしたときに使う言葉にひっかけられているんだ。また車が止まったときに使うStallにひっかけ、‘She Gets Scared And She Stalls’は言っている。

It's her last chance  
Her timing's all wrong  
Her last chance  
She can't idle this long  
Her last chance  
Turn her over and go  
Pullin' out of the last chance texaco  
The last chance

‘Her Timing's All Wrong’は、エンジンのタイミングにかけている。エンジンのタイミングが少し外れるとミスファイヤー

するから。次に出てくる‘Idle’も、ふたつの意味にかけている。ひとつは車のアイドリング、もうひとつは暇で何もしていないという意味だ。つまり、車のアイドリングも人生も進んでいない。彼女にとって、今が最後チャンスなんだ。「彼女のタイミングは間違っている。彼女はこんなに長くアイドルはできない。彼女を回していけ。最後のチャンスのテキサコから引き抜いて」‘Turn Her Over And Go’はスターターを回して、エンジンをかけること。ここを出て、チャンスをつとめている。

実は僕はカリフォルニアで車のメカニックをやっていたことがある。だから、車の専門用語がちりばめられていることにも、ハツとした。車に興味がなかったら、この詩の奥深さを感じ取れなかったかもしれない。そう思うと、どんな経験も自分の幅を広げていくものなんだと思う。

最初は夜の世界からこの曲に共感を感じ、次にヒッチハイクと車でアメリカのハイウェイを旅をするようになって、トラック・ストップが身



ジョージ・カックル / GEORGE COCKLE  
ラジオ・パーソナリティ。  
1956年、鎌倉生まれ。  
18歳で新宿2丁目のロック・バー<開拓地>で、音楽の世界にのめり込む。ハワイアンなどのCDをプロデュースする傍ら、インタ-FMでは音楽番組「レイジーサンデー」のパーソナリティをつとめ、音楽通ぶりを披露。さらにサーフ・イヴェントなどのMCでも活躍。  
http://whatsupmusicinc.com

近になった。そして車のメカニックを経験して、より詩の深みを読み取れるようになった。  
もしアメリカのハイウェイを走ることがあつたら、トラック・ストップに立ち寄ってみてはどうだろう。薄いコーヒーを飲みながら（これは永遠におかわりできるコーヒーという意味から、英語ではbottomless cupと言うんだ）、ハンバーガーと甘くて乾いたアップルパイを食べよう。  
ちなみにトラック・ストップのカフェには、たまにトラックの運転手しか入れないボクシングのリングみたいなエリアがある。そこはウェイトレスが何人も付いてサーブイスもいいし、早い。なにしろトラック・ストップのなかではトラック運転手はエリートだからね。でもみんな厳つい身体つきだから、ゴリラの檻みたいに見えるけど（笑）。